



飯南町を駆け巡った後はみんなで「乾杯」



人と関わり、文化に触れる(はやしこは公欠扱い)



地域の人との偶然の出会いで生まれた「パプリカジャム」



念願の舞台上で想いを叶えた生徒(神楽甲子園)



三島 啓太さん(飯南高校魅力化コーディネーター)

地域のひととの関わりが新たな価値を

生徒の率直な言葉を間近で聞いていたのは、飯南高校に魅力化コーディネーターとして勤務する三島啓太さん。三島さんにこれからの魅力化について聞きました。

飯南高校では、地域の人の力をお借りしながら、さまざまなことに取り組んでいて、その一つとして県内に親戚等のいない県外生を対象としたホストファミリー制度があります。ホストファミリー制度では、生徒が地域の人の協力で、普段の生活から「はやしこ」等の地域行事への参加

まで、飯南町ならではの魅力に触れる機会になっています。でも町外の生徒には、飯南町という学びの場が魅力になっていきますが、魅力や刺激が少ないと感じている町内の生徒が、まだまだいることも事実です。町内の子たちにとって「近いから」ではなく、「飯南高校だから」と選ばれるように、より一層魅力に磨きをかける時期にきています。

その鍵は、地域のひとと関われる機会をさらに増やすことにあり、と考えています。これまでも町内企業と飯南高校がコラボして「パプリカジャム」を開発・販売したり、神楽好きの生徒で結成

された神楽愛好会が、この夏「第9回高校生神楽甲子園」に出場したりしています。生徒の「やりたい」という思いが、地域の人の共感を得て勢いを増し、新たな価値を生み出しています。

このように生徒一人一人が小さな成功体験を得られる環境は生徒と学校にとっての魅力だと思えますし、この機会をもっと増やしていくことで飯南高校の魅力に、より一層磨きがかかると信じています。

地域で育む学校に

生徒が地域のひとと協働し、新たな価値を生み出す。これは地域の人の力が無ければ、実現しなかったはず。地域の人の力に「すなわち生徒や教員には無い価値観や多角的な視点は、生徒に幅広い選択肢を与えてくれるかけがえのないものです。高校の魅力化は学校だけでは叶いません。地域の人の力を学校の魅力に繋げていくことで、飯南高校が、そして飯南町が魅力溢れる場所になるのではないのでしょうか。

飯南高校の魅力化に向けた挑戦はこれからも続く。

この地で育まれる力

「人数が少ないなあ。でもそこが良い」と思いました。都会の学校では、輝けない人はずっと輝けないけど、ここは人数が少ない分みんなに出番があって、みんなが輝けます。そして、それを助けてくれる先生がいます。

生命地域学や飯南町での生活は、自分の中の好奇心をくすぐってくれます。新しい出来事に出会うと知りたくなる、日々その繰り返しです。一歩踏み出すことは勇気があることだけど、行動すれば次やることは向こうから顔を出してくれます。もともと新しいことに興味を持つ性格ですが、ここに来てさらに、新しいことに挑戦してみようと思うようになりました。

あと、学校の中でも外でもあいさつができるようになりました。東京では、学校の生徒数が多すぎて先輩後輩も分からないし、他人にあいさつするなんてありえませんでした。顔が分かるって僕からするとなんか好きです。

この学校に来て本当に良かったし、「最後は自分で決める」と言ってくれた親に感謝しています。残り高校生活で仲間との「熱い絆」を創っていきたいと思います。

佐藤利哉さん
飯南高校2年生
(東京都出身)

多様な個性の中で育まれる力

「人数が多くなったなあ。いろんな人がいるなあ」と思いました。高校に入って初めてクラス替えを経験したし、利哉くんもそうですけど、面白い人たちにたくさん出会えたことが新鮮でした。

正直はじめは他の高校を考えていたけど、先生の温かさでこの学校に決めました。とにかく先輩後輩が学年を超えて仲がいいですし、生徒と先生の距離も近いんです。だからこそ一人ではできないことも、いろんな人と協力すればできてしまいます。そんな環境が飯南高校にはあるんだと思います。部活動や生徒会活動がいい例かも。団体での活動は人と喋ることばかり。飯南高校に来て、前よりしゃべれるようになったし、自分を出せるようになりました。そして人と協力して何かをやり遂げたときの達成感は何とも言えないです。

でも来てよかったと思う一方で、たまに物足りなさを感じることもあります。昔から飯南町で育ってきたから川や星がきれいなんて当たり前でしたし。気にしてない分、いろんなことを見逃しているんだと思います。だからこそ生命地域学で地域のいろんなものに触れる機会が大切だと思っています。

岡 夢乃さん
飯南高校2年生
(飯南町出身)